

子ども読書支援センターニュース No.159

2017. 8. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年9月5日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《8月のおはなし会で使った本》

『ひまわり』 和歌山静子/作 福音館書店 2006

『おおきくおおきくおおきなあれ』 まついのりこ/脚本・画 童心社 1983

『ぞうくんのさんぽ』 なかのひろたか/さく・え なかのまさたか/レタリング 福音館書店 1999

『でんしゃののって』 とよたかずひこ/著 アリス館 2006

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『くだものさがしもの』 はらぺこめがね/作・絵 PHP研究所 2017.6 ¥1300

「ぶどうがぶっとんだ」「まんごーでまいご」「めろんのめいろ」「ばいんがいっぱい」…。見開きの画面いっぱい描かれたぶどうやマンゴー、メロンなどのくだもの絵。見開きのページごとに、絵さがしや迷路、まちがいさがしなどの問題がついている。カラフルでおいしそうなくだものがいっぱい、だじやれもいっばいの楽しいあそび絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ねむれないおうさま』 ベンジャミン・エルキン/原作 ザ・キャビンカンパニー/絵 こみやゆう/訳 瑞雲社 2017.6 ¥1400

昔あるところに、王様が住んでいた。王様がどうしたことから、このところ一晩中眠れない。大臣たちは、国中からうるさい音をすべて消してしまえば、王様になんとか眠ってもらえるのではと考えた。早速さまざまな音を消すべく奮闘するが…。意外な結末に思わず笑みが浮かぶ。『世界でいちばんやかましい音』で有名なエルキンのお話を絵本化。鮮やかな色彩の絵も楽しめる。

<絵本-小学校低学年から>

『さかなのたまご いきのこりをかけただいさくせん』 内山りゅう/写真・文 ポプラ社 2017.7 ¥1500

川でくらす魚たちも、子孫を残すために様々な方法でたまごを守っている。石の天井にたまごを産み付け、オスがたまごを守るカワヨシノボリ、二枚貝の中にたまごをうみつけるニッポンバラタナゴ、オヤニラミに自分のたまごを托卵して守らせるムギツクなどの「たまご大作戦」。山口県の川でも見られる身近な淡水魚たちのさまざまな繁殖戦略を、わかりやすく紹介した写真絵本。

『夏がきた』 羽尻利門（はじり としかど）/作 あすなろ書房 2017.6 ¥1300

朝から元気なセミの声。ちりん、ちりん、風鈴の音。お茶が麦茶に変わってる。浜はもうすぐ海開き。海の家準備も忙しく…。夏がきた。待ちに待ったぼくらの季節…。徳島県阿南市在住のイラストレーターが、里山と青い海と空に恵まれた四国の豊かな自然を丁寧に描く。子ども時代の夏の日が懐かしく思い出される。少年のまぶしい夏の一日をあざやかに切りとった絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『もののけの家』 ほりかわりまこ/作 偕成社 2017.6 ¥1400

今は昔、京の都に妖怪などのもののけが出るという屋敷があった。長い間、打ち捨てられたその屋敷に、大変な物知りだと評判の宰相が引っ越してきた。さっそく怪しいことが次々とおこり、家来たちはうす気味悪がるが、さて宰相は…。平安時代の説話集『今昔物語集』に収められた4つの説話をもとにした創作絵本。「今昔物語絵本」シリーズの1冊。

『どうぶつたちがねむるとき』 イジー・ドヴォジャーク/作 マリエ・シュトゥンプフォーヴァー/絵

木村有子/訳 偕成社 2017.6 ¥1600

キリン、ラクコ、ニシキヘビ、アザラシ、シロクマ、ヤマネにラクダ…。動物たちはどんな風に眠るのかな。どんな夢をみるのかな。16種類の動物の眠り方を、やさしい言葉で語る。フロッタージュ（でこぼこした物の上に紙を置いてこする技法）による温かみのある絵が印象的。「チェコの最も美しい本2014年」で児童書部門の3位を受賞した絵本。

<絵本-小学校高学年から>

『「いる」じゃん』 くどうなおこ/作 松本大洋/絵 スイッチ・パブリッシング 2017.7 ¥1600

だれがいるか。地球がひとりだったころさびしくてなかがまがほしかった。ぼくもいっばいゆめをみて世界にウッスしにいこう…。紙の余白を効果的に使ったシンプルで優しい絵が、詩の味わいをより引き出す。リズムカルな詩は、思わず声に出して読みたくなる。詩人くどうなおこと、息子である漫画家松本大洋による、母と子の合作絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『きらきらシャワー』 西村友里/作 岡田千晶/絵 PHP研究所 2017.6 ¥1100

小1の広矢は、プールの時間に浴びるシャワーが大の苦手。冷たくて、はげしくて、怖くて。ある日公園で、水たまりに落ちて

もがくありを発見。助けたいけど触れないで困っていると、知り合いのお兄さんが葉っぱを使って助けてくれた。次の水泳の日、今度はシャワーの足元で葉っぱにつかまるありを発見。さあどうする広矢。心の機微を丁寧に描いた幼年童話。

<読み物—小学校中学年から>

『リンちゃんとネネコさん』 森山京/作 野見山響子/絵 講談社 2017.7 ¥1300

小4のリンちゃんは、ある日、よたよたと走るおばあさんのネネコさんに出会う。「負けてたまるか」が口癖のネネコさんに興味をもったリンちゃんは、ネネコさんを主人公にした劇を作ろうと思いつく。一方、ネネコさんは、リンちゃんの姿に、若いころの自分を重ねていた。ネコの町を舞台にした、年がかりはなれた見ず知らずの二人の友情の物語。

『靴屋のタスケさん』 角野栄子/作 森環/絵 偕成社 2017.7 ¥1200

1942年初夏、近所の時計屋さんのあとに入った「タスケ靴店」が気になって、毎日お店の中を覗く小1のわたし。いつしかタスケさんはわたしを店の中に入れて、仕事ぶりを見せてくれるようになった。どうしてもタスケさんに自分の靴を作ってほしいわたしは、お父さんの了解を得て赤い靴を注文。それを履いて七五三のお祝いに出かけたが…。戦争の時代の、小さい女の子の淡い初恋物語。

<読み物—中学生から>

『こんとんじいちゃんの裏庭』 村上しいこ/作 小学館 2017.7 ¥1400

コンビニでちょっとキレてしまった僕の家には警察が。ちょうどその時、認知症の祖父が交通事故にあったとの知らせに事なきを得たが、祖父は意識不明の重体。なのに、車を運転していた人から損害賠償請求がきた。「絶対におかしい!」と感じた僕は自分で調べようと…。大人不信から不登校になった中3の少年が、大人の嘘を暴こうとする中で、様々な大人と出会い成長していく物語。

『ガラスの封筒と海と』 アレックス・シアラー/著 金原瑞人、西本かおる/訳 求龍堂 2017.6 ¥1600

海の見える村に住むトムは、1年前、海で父を失ったにもかかわらず、海に出て行くことを夢みずにはいられない。ある日、手紙を入れた瓶を海に投げることを思いつき、来るはずのない返事を待ち焦がれていた彼の元に、船乗りの幽霊からの手紙が…。船乗りへの憧れや父親への強い思いを持つ少年が、不思議な体験を経て成長する姿を描いたヒューマン・ファンタジー。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『新はたらくおおきな自動車100点』 講談社 2017.7 ¥680

車両を2つつなげた「連節バス」の定員は129人。競走馬を4頭乗せて走る「馬運車」は、馬が安心できるように、揺れを少なくする工夫が。「ロケット運搬台車」は、2台組み合わせ、宇宙ロケットを発射台まで移動させる。最新のはたらく大きな自動車100点を、迫力ある大きなカラー写真とくわしい解説で紹介する。小1の国語科「じどうしゃくらべ」で活用できる。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『アイちゃんのいる教室 6年1組にじ色クラス』 高倉正樹/ぶん・しゃしん 偕成社 2017.7 ¥1200

目がくりっとして、人なつこくて、漢字が得意なアイちゃん。ダウン症だから、上手くできないことも、周りを困らせることもたまにあるけど、クラスの友だちにとって、アイちゃんは大切な仲間。ダウン症のアイちゃんと通常学級の子どもたちが過ごす小学校最後の1年間を、写真とともに紹介する。『読売新聞』宮城県版連載をもとに単行本化。

『みんなの命と生活をささえるインフラってなに?①水道』 こどもくらぶ/編 筑摩書房 2017.6 ¥2800

インフラとは、人びとの命と生活をささえる設備や施設のこと。その1つである水道を取り上げ、水道のはじまりから、水不足をさけるための工夫、上水道のあるくらしを守るための努力、水道の未来までを、写真や図でわかりやすく解説。災害後に水道局がおこなう復旧事業なども興味深い。小4社会科「すみよいくらしをつくる」で活用できる。他に「下水」「通信」。

『よくわかるネット依存』 遠藤美季/監修 PHP 研究所 2017.7 ¥3000

過度のインターネット利用が、心や体、脳に影響をおよぼし、学力や集中力の低下につながるということがわかってきた現代。ネットのしくみと安全に利用するための注意点、ネット依存の主な種類とそれが与える影響について解説し、ネットと上手につきあうために大切なことや、ネット依存の克服法などを紹介する。自分、先生、家族用のチェックリスト付き。「楽しい調べ学習シリーズ」。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『とことん 孫正義物語』 井上篤夫/文 フレーベル館 2017.6 ¥1300

子どものころから、何をやるにも一所懸命で「とことん」やらないと気がすまない正義。日本を代表する事業家となった今でも大切にしている、祖母から言われた言葉「人様のおかげじゃけん」が、繰り返し登場する。小学校時代の学級会での発言や、高校時代のアメリカ留学中の勉強への取り組みの様子、帰国後日本国籍を取る際のエピソード等を、事実に基づいていきいきと描かれた物語。

<ノンフィクション—中学生から>

『14歳からのパレスチナ問題 これだけは知っておきたいパレスチナ・イスラエルの120年』 奈良本英佑/著 合同出版 2017.6 ¥1480

中東史の専門家が、なぜパレスチナには平和が訪れないのか?という疑問について、120年の歴史を検証し、この土地ですべての人々が平和のうちに生きる道を探る。パレスチナ人やユダヤ人とはどんな人?大国のエゴイズムに翻弄された歴史は?基礎知識から専門的な内容まで、地図や写真を多用し、中高生にも分かりやすく述べている。

『ぼくの村がゾウに襲われるわけ。野生動物と共存するってどんなこと?』 岩井雪乃/著 合同出版 2017.7 ¥1400

シモラ君の村に5・6年前からゾウが平気で入ってくるようになった。作物が荒らされ、人が踏み殺されることも。「動物保護区」の設置で移住させられた村人たちの苦しみ寄り添い、その解決策を模索する。20年前、大学院生として現地調査でタンザニアの国立公園にある周辺の村を訪れて以来、「野生動物と人間の共存」について考えてきた著者による問題提起。

<研究書>

『ブックトークのきほん 21の事例つき』 東京子ども図書館/編集 2016.8 ¥600

東京子ども図書館の機関誌『こどもとしゃかん』掲載された記事に、書き下ろし原稿を加えたブックレット。松岡享子、張替恵子によるブックトークの基礎知識を伝える評論2点と、ブックトークの「シナリオ」7点と「実践報告—プログラムと子どもの反応」14点を収録。ブックトークの基本からシナリオの作成、実演の工夫が学べる。加筆し書籍化。「TCLブックレット」シリーズ。

